

小学3年 音楽でまほうをかけよう

【音の特徴とイメージとの結びつき】

音楽科の第3学年の目標のひとつに、「音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつこと」が挙げられている。自分の表現したいイメージと、音や音楽の特徴から得られるイメージが合致したとき、表現に対する意図が生まれると考える。そこで、「まほうの音楽」づくりを行い、まほうの音楽に使う「ざいりょう」として、打楽器の鳴らし方を工夫する。また、「成功編」と「失敗編」を同じ打楽器を用いてつくることで、「ざいりょう」の選び方や構成の仕方に目を向け、表し方を変化させる。まほうの音楽づくりに取り組むことを通して、自分では気づかなかった表現の工夫やその意図に気づくことができ、進んで音楽表現を工夫しようとする姿につながっていけるよう、次の実践を行った。

<学習活動の実際> (8時間完了)

時	○ 学 習 活 動
1	<p>目標：曲想や歌詞の内容、楽器の音色が生み出すイメージを感じ取り、音の特徴と関連づけて聴く。</p>
2	<p>○「まほうの音楽」が入っていない「おかしなすきなまほう使い」を聴き、曲想や歌詞について気づいたことを話し合う。</p> <p>楽しそうな音楽だね。</p> <p>おっちょこちよいでかわいいね。</p> <p>かぼちゃにまほうをかけるなんて、食いしん坊な感じがするよ。</p> <p>○「まほうの音楽」の例を聴いて、気づいたことを話し合う。</p> <p>鉄琴がきらきらした感じの音だからまほうが成功した時の音楽みたいだな。</p> <p>小太鼓の音は暗い感じがして、暴れているような気がするから、失敗した時の音楽みたい。</p> <p>音の違いで、成功した時の音に聴こえたり、失敗した時の音に聴こえたりするね。自分達でも、まほうをかける音楽をつくってみたいな。</p> 
3	<p>目標：材質による音の特徴をとらえ、「まほう成功」「まほう失敗」のイメージに合わせて、楽器の「打ち方」「鳴らす回数」「強弱のつけ方」を変化させる。</p> <p>○まほうの音楽に使う「ざいりょう」を集める。</p> <p><u>注…「ざいりょう」とは、イメージに合わせたさまざまな鳴らし方による楽器の音色を指す。</u></p> <p></p> <p>大太鼓を大きくドーンと鳴らしたら、皮が響いて、爆発したみたいな音ができるよ。</p> <p>こんな感じの音にしたいな。</p> <p></p>

4 ○集めた「ざいりょう」を友達と聴き合い、イメージと音の特徴を結びつける。

ウッドブロックは交互に鳴らして、迷っている感じにしようかな。



こすってみたらどうかな。

トライアングルのチリリリって音は、きらきらして使ってそう。

5 ○集めた「ざいりょう」を聴き合って、まほうの成功失敗座標に表す。



成功編には、金属の楽器が多いね。

金属の楽器はきらきらした音が多いから、成功した感じに聞こえるのかな。

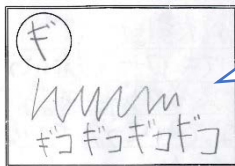
ギロは、まほう失敗のイメージが多いよ。



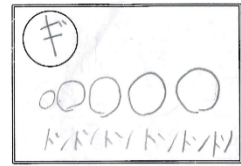
楽器の鳴らし方によって雰囲気が変わるね。まほう成功とまほう失敗、両方の音楽をつくらしてみたいな。

6 目標：つくりたい「まほうの音楽」に合う「ざいりょう」を選び、音の重ね方や組み合わせ方について、思いや意図をもつ。

7 ○まほうの成功と失敗それぞれに使う「ざいりょう」を決め、「まほうの音楽」をつくる。



ギロをギコギコこする音は、まほうがうまくいかない時のような感じがする。失敗編に使いそうだな。



<成功編>
だんだん盛り上がる感じにしよう。
【材料】鉄琴→シンバル→小太鼓→ギロ
<失敗編>
鉄琴とギロを入れ替えて、小太鼓と鉄琴を一緒にならして、残念な感じを出そう。
【材料】ギロ→シンバル→小太鼓・鉄琴



順番を変えたり重ねたりしたら、イメージに近づいたよ。

8 目標：選んだ「ざいりょう」の音の特徴や順番、組み合わせ方に着目して聴き合い、さまざまな表現のよさに気づく。

〇工夫してつくった「まほうの音楽」を聴き合う。



なるほど。同じ楽器でも、ぼくたちと鳴らし方が違ったよ。それもいいね。

同時に鳴らすのは思いつかなかったよ。

小太鼓の音で、お皿が燃えていたのを表現しているのがおもしろかった。



音の大きさや楽器を変えたら、雰囲気が変わっておもしろかった。「ざいりょう」の組み合わせ方でも変わるよ。

<省察>

児童は、つくりたいイメージと楽器の材質の違いによる音の特徴とを結びつけ、まほうの音の「ざいりょう」を集める活動では、奏法を工夫したり強弱を変えたりしながら、楽しみながら音探しをしていた。また、集めた「ざいりょう」を座標軸に表し、成功失敗の分布を目で見える形で表したことは、子供たちの思考を整理する手助けになった。「まほうの音楽」をつくる学習では、音の重ね方や組み合わせ方を意識しながら、友達と話し合っただけで活動することができた。友達の発表を聴く場面では、よさを積極的に見つけることができたと考える。

楽器を使う音楽づくりでは、楽器の数を十分に用意し、実際に音を出しながら試行錯誤する時間を十分に設け、自己決定する時間を大切にしたい。